



県高校総体代替大会

アーチェリー女子個人、星野接戦制す。



〈アーチェリー女子個人〉
最終エンドでの逆転劇で競
り合いを制した星野爽来
(鶴岡中央) 〓鶴岡市小真
木原公園南多目的広場

県高校総体 代替大会

新型コロナウイルスの影響で中止になった県高校総体に代わり、3年生の集大成の場として県高校体育連盟が設けた独自大会は18日、県内の各地区で陸上やアーチェリーなどが繰り広げられた。アーチェリーは鶴岡市小真木原公園南多目的広場で行われ、鶴岡南、鶴岡工、鶴岡中央、鶴岡北、鶴岡東、酒田南の6校から27選手が出場。男女の個人(72射)と団体を行い、女子個人は星野爽来(鶴岡中央)が接戦を制し、男子個人は佐藤隼人(鶴岡工)が頂点に立った。3選手の個人成績の合計で競う団体は男子の鶴岡工、女子の鶴岡南Bがそれぞれ1位だった。

ヒロシ

結果は劇的だった。アーチェリー女子個人は3年の星野爽来(鶴岡中央)が最終2エンドで逆転し、1点差の競り合いをものにした。「勝てて良かった。いい思い出として次に活かしていきたい」。全個人賞を視界に捉えていた実力者はほっとした表情を浮かべ、さらなる飛躍を期した。

最終盤での集中力がさえた。序盤から白熱した2年の鈴木美恵(鶴岡工)とのトップ争い。3点を追う姿勢で迎えた11エンドに本領を発揮してテンポ良くの中心(10点)を射抜いた。焦る気持ちを落ち着かせ、「しっかり撃ちきることを意識し、持ち直すことができた」。1点差に詰め寄ると、自信を取り戻した最終エンドは安定

最終エンド 1点差逆転

した力で勝負をひっくり返した。不安定な風に苦しんだとはいえ、記録した594点は決して納得できるスコアではない。それでも「意欲を持って臨み、みんなと真剣勝負で競い合えたことがうれしい」。新型コロナウイルスの影響で練習がままならなかった心残りはあるが、結果以上に大会に挑むことができた喜びがあふれた。

技術は荒削りだが、練習で640点を超す高得点をマークするなど、潜在能力の高さは周囲も認めるところ。地元から東京五輪出場を目指す中村美樹(ハードオフ・鶴岡工高出)は憧れて、「世界で戦うレベルに少しでも近づきたい」と願う。高校卒業後も競技続行を決意しており、さらなる高みを見据え、8月に開かれる有志主催のリモートでの全国大会では存在感を示すつもりだ。(須藤仁)

星野(鶴岡中央) 接戦制す アーチェリー 女子個人

山形新聞

掲載：令和2年7月19日